

2019年度「研究者の横顔」レポート

氏名：見立 英史

1. 研究者になるうとしたきっかけ

研修医時代に担当した症例の中で、「なぜだろう」と思って調べてはみたけれども未解明な部分だったので、少しでも解明したい、と思ったのがきっかけです。

2. 助成研究の内容紹介

口腔がんの初期は口腔がんと見た目が似ていて、ある程度経験がないと判断が難しいため、細胞診という簡便な検査をします。この細胞診の結果を見て、口内炎と口腔がんのどちらの可能性が高いかを判断します。この判断にあたる部分も経験知が必要なので、人工知能の力を借りたい、という研究です。

3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

口腔がんの早期発見・早期治療に繋がります。また口腔がんは「希少がん」ですが、がんのほとんどは「希少がん」が占めます。本研究のノウハウを他の希少がんに応用することで、他のがんも早期発見に繋がれば、と思っています。

4. 全国のRFL関係者に一言メッセージ

この度はRFLJに採択して頂き、心より御礼申し上げます。

自分の研究結果で口腔がん患者の早期発見に繋がるよう、頑張ります。